

【全校集会・校長講話】

今から11年前の今日、6月18日は章南中の1年生野外活動の2日目でした。みなさんの先輩である「西野花菜さん」は、野外活動として三ヶ日青年の家で、カッターボート訓練中の事故で、尊い命を奪われてしまいました。

今日は、先生たちが、花菜さんのことやその事故のことを絶対に忘れない、安全については万全を期していくことを確認する日です。「安全」と一言で言うのは簡単ですが、大きく分類すると、3つの「安全」があります。一つ目は「交通安全」です。昨年、6月から7月までの一か月間で、登下校時に11件の自転車事故が発生してしまいました。ほとんどは運転ミスによる事故でした。二つ目は「災害安全」です。近年、季節外れの豪雨や台風が多発しています。学校では、できる限りの気象情報を活用したり、実際に通学路を点検したりして登下校時の安全確保をしようとメール配信をしています。三つ目は「生活安全」です。行事や授業中、放課、部活動で起こるけが、熱中症、これからの季節は食中毒などに対する安全確保です。残念ながら、けがや体調不良で保健室を利用する数は減っていません。

しかし、「いのち」の大切さやみなさんの「安全」に対する意識が高まっている取り組みに感心させられたことがいくつもあります。昨年、登下校をはじめ、自転車の乗り方について安全を誓う「学級マニフェストづくり」を行いました。生徒会を中心に花菜花壇を大切にしようという提案のもと、多くのボランティアが集まりました。図書委員会では、花菜文庫に寄贈された本の紹介を毎年すすめています。安全とは、だれかにやってもらうことではなく、「自分の命は自分で守る。守った命をだれかのために役立てる。」そういう原則に近づいていると言えるのではないのでしょうか。今日は、みなさんにもいのちの大切さを考えてもらう日となっています。この行事は、豊橋市内すべての小中学校で行っています。

さて、毎年、校庭に掲揚している旗を紹介します。これは、花菜さんの好きな色、菜の花の黄色の旗で、花菜さんが野外活動のしおりの表紙に描いた絵です。そこには、自然から学ぶ、協力の大切さを学ぶという意味で、同級生たちとカッターボートが描かれています。ボートに乗っている友達の目は、みんな同じ方向を見つめています。「夢があるっていい」。という言葉は、花菜さんがカッターボート事故前日の夜の研修会で、しおりに綴ったものです。この言葉のあとに「私はこの同級生の活躍を見たい。」という続きがあります。花菜さんは、仲間の活躍を期待する学年のリーダーでありました。さらにとときどきご病気をされたお母さんの思い、「自分の夢は医者だ。」と記していました。大切な一人娘である花菜さんを失ったあと、この決意を目にしたお母さんは、わたしたちの想像を超えるほど涙を流されたそうです。お母さんは、昨年12月、難病を患った末、帰らぬ人となってしまいました。

この、黄色い旗は、三つあり、三ヶ日青年の家と運営会社であった小学館集英社にもあります。今日は、それぞれの場所でも追悼の行事が行われ、この旗が掲げられます。三ヶ日青年の家では、今でも行事のたびにこの旗が掲げられています。また、朝の読書中に流れていた「未来(あした)へ」は、当時の家庭科の先生が花菜さんを忘れないために何かを残したいという思いで作られた歌です。この歌は、三ヶ日青年の家で、花菜さんの追悼行事で三ヶ日中学の生徒も毎年歌っています。

このほかにも、この事故を「忘れない」ために、校内に目に触れることができるものがあります。章武館の西側にあるハナミズキの木です。ヴァイオリン教室の近くにあった花菜さんの好きな木だったそうです。

今日は、花菜さんにヴァイオリンを教えていた大竹様とピアニストの鈴木様が演奏していただきます。お二人は、11年前と3年前にも、演奏会を開いてくださいました。大竹様は、花菜さんのヴァイオリンを使って演奏して下さるそうです。今日は、花菜さんが野外活動に出発する前日まで練習した曲、その次に練習中だった曲も演奏していただきます。そして、花菜先輩を追悼するバルーンリリースを実施します。昨年、風船のひとつが蒲郡市三谷町の施設に届きました。章南中の豊橋・学校いのちの日の活動に対して、応援して下さる手紙を送っていただきました。みなさんが下校した後は、何がなんでも先生達がみなさんの命を守り抜くという研修を豊橋市教育委員会の方とともに行います。今日は、花菜さんのことを静かに思い、かけがえのない命の大切さ、また、家族や友達、周りの人の命を大切にするために何ができるかを考える一日に

なることを期待して、校長先生からの話とします。今日は、よろしくお願ひします。